

令和6年度

府中市立住吉小学校学校経営計画

府中市立住吉小学校
校長 木下 和紀

○ はじめに

本校は、「学力の向上」「安心・安全な学校づくり」を重点課題とし、「府中型コミュニティスクール」「小中連携」など地域連携協働の取組を通して、その解決に当たり、府中市学校教育プランの実現を目指します。

1 学校教育目標

学校や郷土を愛し、知・徳・体の調和のとれた「誇りのもてるふるさと府中を創り、世界に活躍する府中っ子」を育成する。

○かしこく（問題解決力）◎やさしく（人間関係形成力）○たくましく（実践力）

2 目指す学校（基本理念）

(1) 子どもにとって 共に学んだことを誇れる学校を目指します。

- ①授業が楽しくてよく分かる。
- ②友達関係が安定していて教室に居場所がある。
- ③苦しいことを乗り越え、やり遂げた達成感がある。
- ④学校がきれいで明るい雰囲気がある。

(2) 教職員にとって 共に働いたことを誇れる学校を目指します。

- ①目標とする同僚や先輩がいる。
- ②悩みを安心して話せ、互いに助け合える。
- ③指導力が向上したと実感できる。

(3) 保護者・地域にとって 「おらが学校」と誇れる学校を目指します。

- ①子育ての不安や悩みを黙って聞いてくれる。
- ②適確なアドバイスがあり、素早く対応してくれる。
- ③保護者・地域への情報提供により、学校の様子がよく分かる。
- ④保護者・地域と共に健全育成を図ろうとする。
- ⑤保護者・地域の力が活かされているという実感がある。
- ⑥万が一の場合、防災の拠点としての組織、施設・設備が充実している。

3 校長が期待する教師 =教師は最大の教育環境、チーム住吉の精神で=

(1) 愛情あふれる教師であれ。（児童愛、教育愛、同僚愛、学校愛、地域愛）

- ①子どもを一人の人間として尊び、子どもの心に寄り添う。
- ②子どもの言葉に耳を傾け、一方的、思いこみの指導はしない。体罰はもつてのほか。
- ③保護者の思いを受け止める。まずは傾聴（聞き上手）を心がける。
- ④チームとしての自覚をもち、助け合い、協働できる。
- ⑤地域との関係を積極的に構築する。

(2) 教育のプロとして高い志と指導技術をもつ教師であれ。自ら育つ教師であれ。

- ①研究心旺盛で、日々授業改善に取り組む。（教材開発、研究授業への挑戦）
- ②計画的、継続的な指導ができる。（週案の提出、記録）
- ③先輩・同僚を信頼し、助言を素直に受け入れ、切磋琢磨できる。（校内研究、行事等企画・実施）
- ④学年主任を中心にした組織的対応ができる。（学年共通実践）
- ⑤目標を明確にした授業計画を立案、実施できる。（指導案の作成）
- ⑥自己評価力がある。（授業評価、学級経営評価、改善策の提案）

(3) 危機管理能力の高い教師であれ。

- ①何が危機になるかを知っている。（経験、知識、適確な初期対応）
- ②報告、連絡、相談を欠かさない。（ホウレンソウ）
- ③未然防止の手立てを打っている。（信頼関係の構築、方針の明確化、観察、相談、記録）
- ④組織的対応をし、早期解決ができる。（学年共同歩調、共通実践、チームワーク）
- ⑤過ちを繰り返さない。（問題点と対策の共有、協働思考、生活指導夕会での周知）
- ⑥いじめ、不登校の芽を見逃さない。（校内委員会を中心にした全校体制）

(4) 教育公務員として期待に応えられる教師であれ。

- ①全体の奉仕者としての自覚と責任をもつ。（公務員としての自覚）
- ②コンプライアンス（遵法精神）、いつでも説明責任を果たせる。
- ③コスト意識があり無駄を省くことができる。
- ④適正な会計処理、予算執行、省エネ・省資源を心がける。

4 中期的な目標と今年度の取り組み

(1) 確かな学力を活用した問題解決力を育てるために

目標：下学年 90%の定着 上学年 85%の定着

①基礎・基本の定着、「教えることはしっかりと教える」を合い言葉に定着を図ります。

- ・繰り返し学習と個別指導、東京ベーシックタイム（BDT）を活用した補習
- ・家庭学習の充実（学年×10分）・・・eラーニング等デジタルコンテンツの活用
- ・地域と連携して実施する放課後算数教室（年間20回以上）

- ・ICT活用の推進、タブレット端末を中心としたデジタル機器や教材の活用、個に応じた支援の推進
- ・英語でのコミュニケーションを行う活動の充実 英語 ENJOY WEEK、TGG 体験活動（5年生）

②学習規律を確立します。

- ・授業の最初と最後のルーティーン 「起立」「礼」「始めます」「終わります」
- ・授業中の発言の仕方、「はい」「立つ」「です」の共通指導
- ・道具（学用品使用）の指導（住吉小スタンダード）

③授業改善を進め、教師の授業力の向上を図ります。

- ・主体的、対話的で深い学びのある授業への改善を図ります。
- ・授業評価（年間3回指導略案、授業公開）
- ・若手教員研修（4年次まで）の実施 年間4回以上（主幹、主任による指導）
- ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善
- ・教員のICT活用の研修

④言語環境及び言語活動の充実を図ります。

- ・美しい日本語に触れる校内環境の整備（教室・廊下）、学校図書館支援員との連携
- ・読書指導の時間（週1時間目安に）の確実な実施
- ・保護者、地域との連携で実施する読み聞かせ（週1回程度）

(2) 共生社会で生きるための人間関係形成力を育成するために

目標：いじめ、不登校の早期解消、ふるさと意識の向上

①児童個々の特性等の理解ときめ細やかな対応を図ります。

- ・児童理解研修の実施（年間2回程度）、生活指導に関する情報交換（週1回程度）
- ・特別支援教室「ひばり」、難聴言語障害学級「きこえとことばの教室」との連携

②特別支援教育の推進により、個々の特性に応じた指導・支援の充実を図ります。

- ・特別支援教育コーディネーターを中心とした、迅速で継続的な支援
- ・合理的配慮による個々の特性に応じた支援の推進
- ・ICTの活用による個々の特性に応じた支援の工夫
- ・学校生活支援シートによる保護者との連携、連携型個別指導計画による在籍学級の担任と特別支援教室「ひばり」の担任との連携の推進
- ・特別支援教室「ひばり」、難聴言語障害学級「きこえとことばの教室」との連携による教員の特別支援教育の理解の推進
- ・障害理解教育の推進により、学級内での居場所作りを推進
- ・就学前機関との連携を推進し、情報の連携と早期の支援を徹底
- ・特別支援教室「ひばり」において、「第4次府中市特別支援教育推進計画」及び「特別支援教室ガイドライン」に基づき、通常の学級での特別な支援の必要な児童に対して、個々の特性に応じた専門性の高い指導・支援を行う。日々の連絡帳・学期末の個人面談による保護者との連携、連携型個別指導計画による在籍学級の担任との連携を推進し、関係者の共通理解による指導・支援を徹底する。「読み書き障害」に対する支援方法を充実させ、拠点校・巡回校において、早期支援の実施を図る。
- ・難聴言語障害通級指導学級「きこえとことばの教室」において、「第4次府中市特別支援教育推進計画」に基づき、通常の学級での特別な支援の必要な児童に対して、個々の特性に応じた専門性の高い指導・支援を行う。個別指導計画・日々の連絡帳・指導期間後の個人面談により保護者・在籍学級の担任との連携を推進し、個々の特性に応じた指導・支援を徹底する。府中市内小中学校に対して、難聴言語障害についての理解推進を図る。

③地域人材の活用を通して地域の方々と交流し、ふるさと意識を醸成します。

④生活規律を確立します。

- ・規範意識、危険回避能力を育てるセーフティ教室・情報モラル、薬物への対応
- ・テレビ、ゲーム、スマホの使用時間についての指導（利用時間2時間以内）

⑤校内支援体制をさらに充実させます。

- ・校内委員会、いじめ防止対策委員会を中心とした組織的支援
- ・スクールカウンセラーを中心とした教育相談体制の一層の充実
- ・ケースに応じた他機関連携の実施（はばたき、SSW、みらい、児童相談所、病院等）

⑥持続可能な開発のための教育（ESD）を推進します。

- ・現代社会の課題を自らの問題としてとらえ、環境や平和、人権等の持続可能な社会の構築のために解決が必要な問題に対して、各教科・領域を通して取り組む。

(3) 困難に負けない強い体と意思、実践力を育てるために

目標：前年比5%の体力向上

①十分な運動量の確保（体育指導、休み時間遊び、1日10分運動）

②学校全体の体力づくりを推進します。（持久走や縄跳び、年間を通した学習カードの活用）

- ③安全な体育の授業を実施します。（危険予知、週案への記載、安全対策の共通実践）
- ④健康指導、食育を推進します。（養護教諭と栄養士との連携）
- ⑤確実なアレルギー対応を行います。（給食主任を中心とした予防と適切な対応）
- (4) 安心・安全の学校づくりのために
 目標：学校事故ゼロ
 - ①教師の危険予知及び回避能力の向上を図ります。
 - ・安全対策、週案への記入と日直による見回りの徹底
 - ・危険箇所の発見、トラブルの早期発見、担任への支援
 - ・いじめに関する教員研修の実施により、いじめの早期発見・早期対応を徹底
 - ②不登校、いじめに対しては、即時、組織的に対応します。
 - ・サポートルームによる不登校対応、個に応じた支援の推進・・・不登校の改善
 - ・いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止対策委員会による早期解決
 - ③防災教育を推進します。
 - ・水害対応（府中市防災危機管理課との連携） 5年生
 - ④アレルギー対応を着実に進めます。
 - ・対応手順及び緊急時の連絡体制の確認・・・緊急対応訓練の実施 4月
 - ・要配慮児童の共通理解、共通対応（配食及びアレルギー対応等の実技研修） 4月
- (5) 保護者・地域とつくる学校、地域協働の学校の実現のために
 - ①スクールコミュニティ協議会、地域コーディネーターを活用した教育活動を展開します。
 - ・「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」として、地域の人材活用を通してふるさと学習の実施（全学年年間3回以上）
 - ・地域と連携した補習授業（放課後算数教室）、夏期算数教室の実施
 - ②地域の防災拠点としての体制を維持、発展させます。
 - ・地域協働の避難所開設訓練〔防災研修〕・・・10月（5年児童参加）
 - ・スクールコミュニティ協議会を活用した地域防災会議（避難所運営委員会）の実施
 - ③八中学区小中連携事業を進めます。
- (6) 学校経営支援員、校務改善支援員及び合理的配慮支援員の活用のために
 - ①学校経営支援員、子どもと家庭の支援事業を活用し、個に応じた支援を行います。
 - ・算数を中心とした学習支援（TT指導・・・1, 2年生で実施）
 - ・生活指導支援（特別支援、不登校対応、サポートルーム支援）
 - ②校務改善支援員を活用して副校長及び担当事務の軽減を図ります。
 - ・副校長の事務処理への支援
 - ・教員が行う事務への支援（会計処理及び銀行対応、学年ホームページの更新）
 - ③合理的配慮支援員を活用し、学習上、生活上「困り感」のある児童への支援を進めます。
 - ・子どもの教育的ニーズに応じた安全の確保、学習支援、生活支援の実施
 - ・保護者、みらい等行政、医療機関等、関係機関との連携強化（関係者会議の実施）